

令和7年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和6年度		
事業番号	54	事業名	自然環境保全活動支援事業 (中事業名) 自然環境保全事業		担当課		環境課		
					予算区分（款-項-目-中事業）		4-1-3-3 自然環境保全事業		
					決算書ページ		152	153 一般	
I 基本情報	総合計画	基本目標	3	みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物					
		政策	1	万博理念を継承した自然との共生					
		施策	(1)	豊かな自然環境の保全・活用					
	その他	開始年度	—						
		終了予定年度	年度	☒ 未定	市民・民間事業者との連携協働の可能性		両者と協働可		
		根拠法令等	自然環境保全法、生物多様性基本法、生物多様性地域連携促進法等						
		関連計画	長久手市環境基本条例、第4次長久手環境基本計画						
	事業の概要・目的	①事業概要 (どんな取組を行うのか)		②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わるのか)			
		【対象】 ☒ 市民 ☒ 事業者 ☐ 職員 ☐ その他 対象の数： 60,000人+事業所		【アクションプラン指標】 自然環境保全アドバイザー会議 の開催【単年】 【その他の指標】		人と地域がつながり、自然と環境にこだわるまちを目指して行動する人々が増える。 (成果指標名) 自然観察会・勉強会の参加者数		④最終成果 (大事業の将来像)	
		【事業内容】 市民活動団体による自然環境保全活動や貴重種保全活動、外来種駆除活動の支援を行うとともに、東部丘陵生態系ネットワーク協議会と調整を図りながら、広域での生物多様性の保全活動を行います。						大事業共通 くらしの安心や健康、幸せや豊かさを実感できる。 環境を通じて、地域、自然、世界とつながる物語が生まれる。	

Ⅱ 活動状況（アウトプットの詳細）	活動指標	活動指標名		単位	基準値（2023年） 目標値（2028年） ※AP指標のみ		区分	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度	R10(2028) 年度
		1	【アクションプラン指標】 自然環境保全アドバイザー会議の開催【単年】	回	基準値	1	目標値	1	1	1	1	1
					目標値	1	実績	1				
		2			基準値		目標値					
					目標値		実績					
		3			基準値		目標値					
					目標値		実績					
		4			基準値		目標値					
					目標値		実績					
エピソード	事業開始 の背景	1972年に自然環境保全法が制定されるなど、自然環境保全に日本全国及び世界的にも取り組んでいる。本市においても、第4次長久手市環境基本計画（令和3年度～）を策定し、自然共生のくらしと地域づくりを目標に事業を進めている。										
	各年度の実績、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由											
	R6	令和6年度は、自然環境保全アドバイザー会議を令和7年1月31日に開催し、生態系保護エリアの状況について報告し、アドバイザーから今後の方策等に向けた助言をいただいた。				R7						
	R8					R9						

Ⅲ事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）

成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）		単位	成果指標の推移と目標										
	自然観察会・勉強会の参加者数		回	R1 年度		R2 年度		【現状】 R6 年度		R8 年度		R10 年度		
				117		147		454		474		494		
	成果達成状況							指標目標値の根拠						
	B	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている							第4次環境基本計画において、2030年までの取組のキーワードを、「人づくり・地域づくり」としている。 市民一人ひとりによる生物多様性の危機的状況や重要性の十分な理解や、将来の担い手となる人材発掘により、下地を育むため、毎年度、自然観察会や勉強会の開催をし、10人程度の参加者を見込み、市民への意識啓発を進める。					
	評価の理由、分析													
	令和6年9月に湿地見学会を開催し、貴重な自然の現場を見学していただいた。 また、令和6年7月に東小学校からの依頼を受け、4年生に対して、環境学習会を開催した。 以上の事業により、市民の自然への理解は深まったと認識しており、継続して、自然観察会等の開催する。													
	今後の方向性			今後の方向性の理由										
	B	A. 拡充 B. 現状維持 C. 縮小 D. 廃止		市民活動団体による自然環境保全活動を支援しながら、貴重な本市の環境を保全していきたい。貴重種の生息する地区は、県有地または私有地のため、市が直接的な整備事業を行うものではなく、啓発活動と市民の保全活動を支援する。										
	改善ポイント													
（成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入）														
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容									見直し可能年度		
1	自然観察会・勉強会の内容研究	☐ 拡充 ☒ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止	自然環境の保全活動への担い手の人材発掘ができるような内容とするため、自然の観察のみではなく、保全活動の体験ができるような内容にするなど、自然観察会・勉強会等の内容を研究していく。									令和7年度		
2		☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止												
3		☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止												

